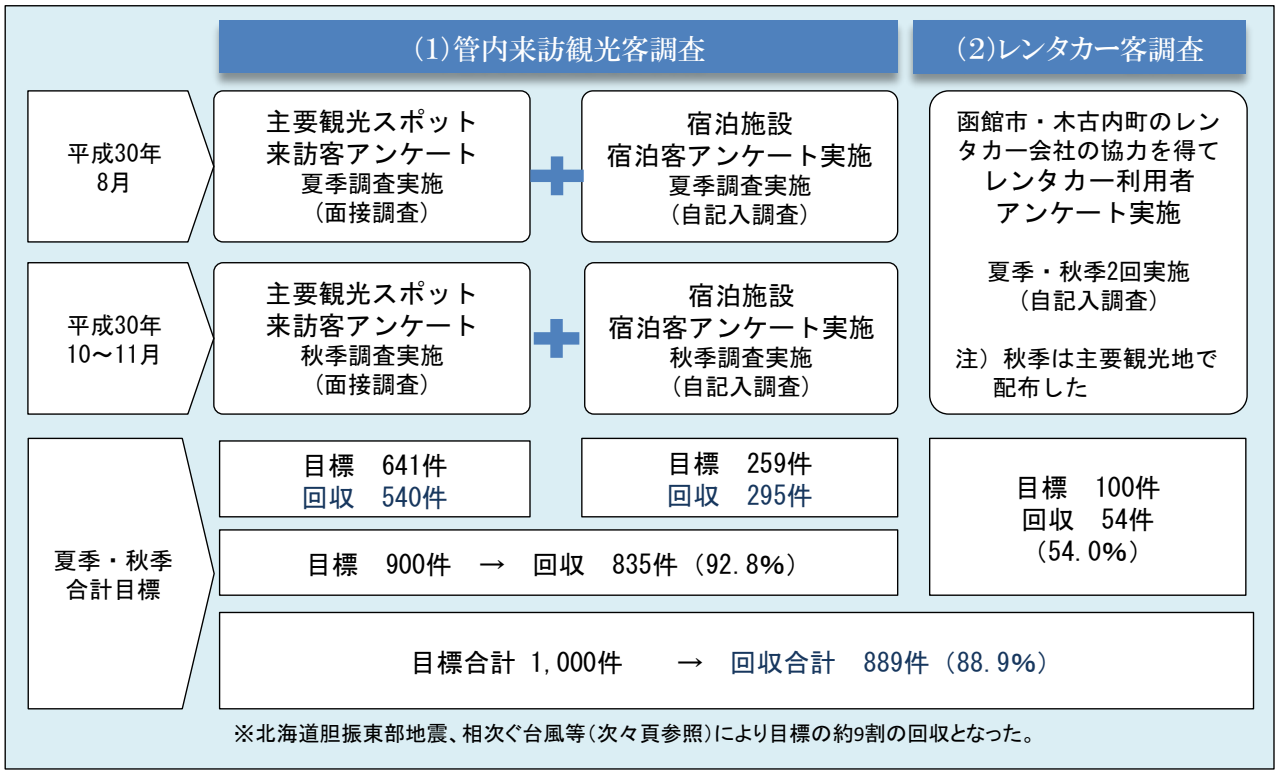
Ⅰ　調査実施概要

1　調査目的

檜山管内における観光客の動態や特徴等を調査分析し、戦略的かつ効果的に着地型観光を推進するための基礎的なマーケティング資料とするとともに、調査分析結果を観光事業者等と共有することを目的として実施された。

2　調査実施体系

下記の体系により、重層的に調査を実施した。



（１）主要観光地での来訪客アンケート

- ◘ 調査対象　檜山管内の主要な観光スポットに立寄った観光客。
- ◘ 調査箇所　檜山管内（７町）の合計20カ所で実施した。
- ◘ 調査方法　基本的にはインタビュアーによる面接聴取法とした。
  （一部、回答者の要望により自記入法を併用）
- ◘ 調査時期　各観光スポットで下記の期間に順次実施した。
  夏季調査　平成30年8月上旬～9月下旬
  秋季調査　平成30年10月上旬～11月上旬
- ◘ 回収件数　夏季　423件　　秋季117件　　合計540件

（２）宿泊施設での宿泊客アンケート

- 調査対象　檜山管内の宿泊施設に宿泊した観光客。
- 調査箇所　檜山管内（７町）の合計17施設に依頼して実施した。
- 調査方法　各施設のフロント等でアンケート用紙を配布し、フロント等で回収した。
- 調査時期　各宿泊施設で下記の期間に順次実施した。

  夏季調査　平成30年7月～9月

  秋季調査　平成30年11月～12月
- 回収件数　夏季　256件　　秋季　39件　　合計　295件

■調査地点・協力依頼施設

町名		調査地点/施設	No.	調査地点/施設
江差町	1	開陽丸	1	ホテルニューえさし
	2	江差追分会館	2	旅庭　郡来
	3	旧中村家・いにしえ街道	3	ホテル寺子屋
	4	道の駅（江差）		
上ノ国町	5	道の駅もんじゅ	4	癒しの宿 よ志栄
	6	国民温泉保養センター	5	料理宿 宮寿司
厚沢部町	7	道の駅　あっさぶ	6	俄虫温泉旅館
	8	うずら温泉　（※日帰り客のみ）	7	うずら温泉
	9	館地区憩いの家		
乙部町	10	元和台海浜公園	8	バリアフリーホテルあすなろ
	11	道の駅ルート229元和台	9	おとべ温泉郷　光林荘
	12	ゆりの里公園		
奥尻町	13	奥尻港フェリーターミナル	10	湯ノ浜温泉ホテル緑館
	14	奥尻島津波館	11	トラベルハウス　想い出
			12	岡本旅館
今金町	15	クアプラザピリカ　（※日帰り客のみ）	13	クアプラザピリカ
	16	あったかランド　（※日帰り客のみ）	14	佐久間旅館
	17	ピリカ旧石器文化館	15	HOTELいまかね
せたな町	18	三本杉岩（海水浴場）	16	温泉ホテル きたひやま
	19	道の駅・てっくいランド大成	17	国民宿舎あわび山荘
	20	立象山公園 立象山展望台		
	21	温泉ホテル きたひやま　（※日帰り客のみ）		
	22	国民宿舎あわび山荘　（※日帰り客のみ）		

（３）レンタカー利用者アンケート実施

- 調査対象　函館市、木古内町を発地として、レンタカーによって檜山管内を周遊する観光客。
- 調査箇所　函館市内14拠点、木古内町2拠点の計16拠点。
- 調査方法　レンタカーの各拠点にインタビュアーを配置、又はレンタカー会社スタッフによって貸出時に上記調査対象者に該当する者にアンケート用紙を配布し、郵送で回収した。

  （注）秋季調査においては利用者が激減するため、先述の(1)主要観光地での来訪客アンケート実施時に、レンタカー利用者に各観光スポットで配布した。
- 調査時期　各観光スポットで下記の期間に順次実施した。

  夏季調査　平成30年8下旬

  秋季調査　平成30年11月
- 回収件数　夏季　51件　　秋季3件　　合計54件

■実施協力拠点

地区	実施拠点数	No.	社名	住所
函館駅	4拠点	1	バジェット・レンタカー函館駅前店	函館市若松町１４番１０号
		2	駅レンタカー函館営業所	函館市若松町１３-２１
		3	ニッポンレンタカー函館駅前 営業所	函館市若松町２２番地５号
		4	トヨタレンタカー函館駅前店	函館市大手町19-2
函館空港	3拠点	5	ニッポンレンタカー函館空港前 営業所	函館市高松町５６９－８３
		6	トヨタレンタカー函館空港店	函館市高松町569-17
		7	タイムズカーレンタル函館空港前店	函館市高松町569-19
新函館北斗駅	5拠点	8	日産レンタカー新函館北斗駅前店	北斗市市渡１－３－２０
		9	タイムズカーレンタル新函館北斗駅前店	北斗市市渡1-5-1
		10	トヨタレンタカー新函館北斗駅前店	北斗市市渡１丁目３番５号
		11	ニッポンレンタカー新函館北斗駅前 営業所	北斗市市渡１丁目５番１号
		12	駅レンタカー新函館北斗営業所	北斗市市渡１丁目３-２０
木古内駅	2拠点	13	タイムズカーレンタル木古内駅前店	上磯郡木古内町字本町338-14
		14	駅レンタカー木古内営業所	道の駅みそぎの郷きこない内
計	14拠点			

参考：調査期間中の主な自然災害

①8月大雨・強風

平成30年8月13～17日における低気圧による大雨、強風で渡島、檜山管内に交通障害等が発生。

檜山北部で一時間最大雨量60ｍｍ前後、奥尻島で最大瞬間風速25m/s

②台風21号

平成30年9月5日をピークに檜山沖の日本海を進んだ台風により、管内では最大瞬間風速30m/sを記録するなど大きな被害と、交通障害などが発生。

③北海道胆振東部地震

台風21号の影響が残る中、平成30年9月6日未明に発生した大地震（最大震度7）は当管内では最大震度4に留まり、地震による直接的な被害は小さかったものの、全道大停電（ブラックアウト）の影響や、交通障害の影響は極めて甚大となった。

④10月大雨・強風

平成30年10月27日における道南地方を通過した低気圧による大雨、強風は、奥尻島で最大瞬間風速24m/sを記録。道南、道東方面で交通障害などが発生した。

《相次ぐ災害に伴う観光への影響》

道内では、相次ぐ台風、震災の影響から観光入込数が大幅に減少した。発災後に『道内宿泊施設をキャンセルした観光客は少なくとも115万人、金額にして150億円』（北海道発表、9月30日時点）の影響が報じられた。

9月の観光入込数も宿泊数ベースで道外・海外客合計で前年比28%減、特に海外客は34%もの大きな減少（平成30年10月25日日本銀行札幌支店北海道金融経済レポートより）となった。

Ⅱ　檜山管内の観光概況

Ⅱは、「主要観光スポット来訪客アンケート」と「宿泊客アンケート」を統合した集計表に基づいて分析してある。なお、両調査は宿泊した施設への直接的評価の質問以外は全て共通内容となっている。

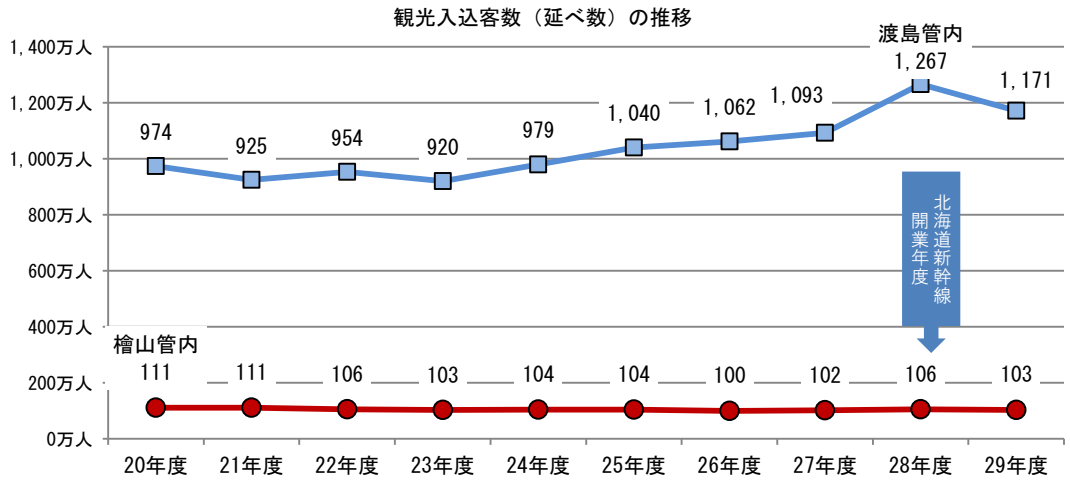
1　檜山管内観光入込概況

1　入込数の推移

平成29年度の管内観光入込客数（延べ数）は平成20年度以後、概ね110万人前後で推移しており、平成29年度は約103万人となった。

管内の観光にとっては、平成28年3月の北海道新幹線開業は重要な環境変化であり、渡島管内では前年度から200万人近い入込増の効果があった。

しかし、檜山管内では目立った入込増につながらず、北海道新幹線効果の波及を十分に取り込めなかった。

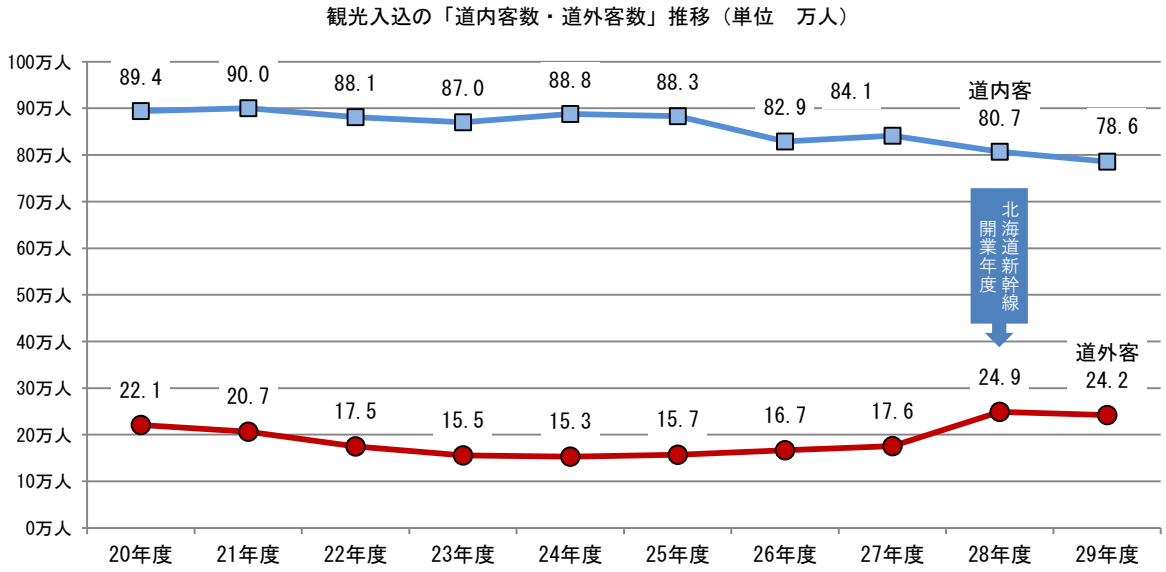


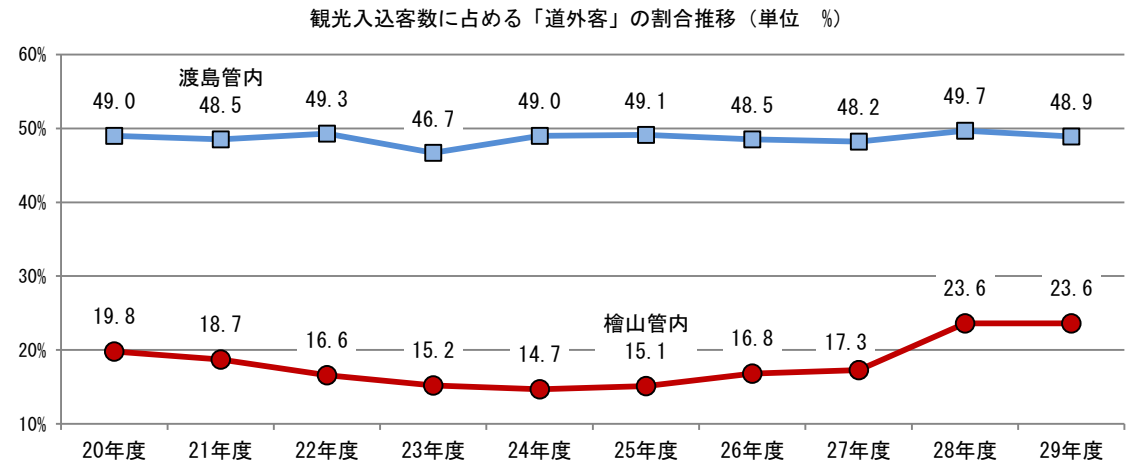
2　道外客割合の推移

管内観光入込客数に占める道外客の割合は、平成20年度以後一貫して20%未満であったが、北海道新幹線開業年度の平成28年度、29年度には約24%になった。依然として3/4が道内客であるものの、緩やかに「道外客」の取り込みが進んでいると考えてよい。

因みに、渡島管内では一貫して半数近くが「道外客」で占められており、北海道新幹線開業後も大きな変化はない。つまり、開業効果は道外・道内の両面に作用したことが分かる。

また、道内客が長期的に減少を続けており、北海道新幹線開業年度以後の道外客増加はみられたものの、管内入込客数自体は目立った増加となっていない。

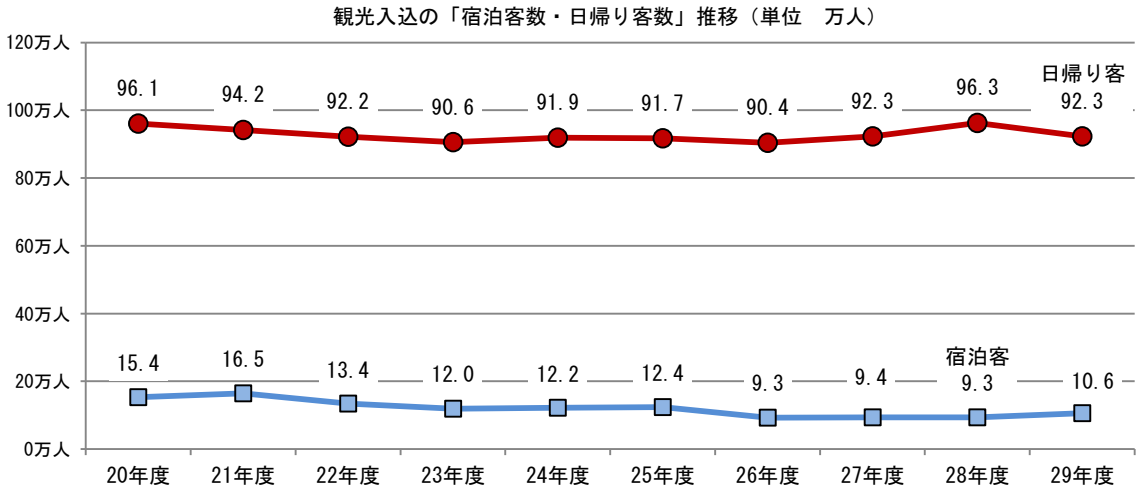


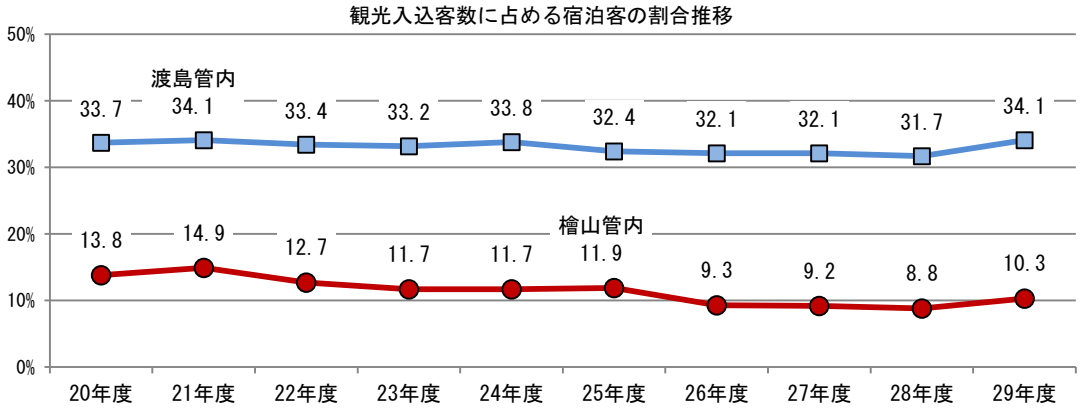


3　日帰り・宿泊客別の推移

管内の観光入込客数に占める宿泊客の割合は、平成21年度には15%程度だったが、その後は徐々に低下し、平成26年度以降は9%前後に留まっている。

なお、北海道新幹線開業後の平成29年度には宿泊客割合が10.3%と、久しぶりに10%台に回復した。しかし、隣接の渡島管内での宿泊者割合は30%以上あることを考えると、檜山管内の“日帰り型”観光圏の特色は明白である。



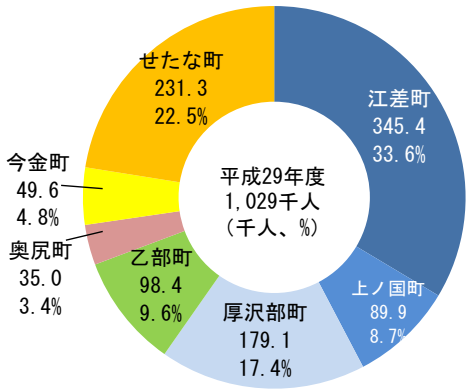


4　管内７町の観光入込状況

平成29年度の管内観光入込客数の７町別構成は右図のように、「江差町」（34.5万人・33.6%）が全体の1/3を占めている。北部では「せたな町」（23.1万人・22.5%）が中心になっているが、全体としては江差町、上ノ国町、厚沢部町の南部３町で管内の６割を占めている。

平成20年度以降の７町の入込数推移は下図表のようになっているが、ほとんどの町で停滞、減少傾向となっている。

管内７町の観光入込客数　町別構成（平成29年度）



【江差町】

平成20年度には年間40万人の入込があったが長期的に減少傾向が続き、平成26年には33万人を割り込んだ。その後、平成27年度には33万人台に戻し、新幹線開業後は34万人台で推移しているが、往時の入込数には届いていない。なお、平成28年度からの伸長は主に、道外客の増加によるところが大きい。

【上ノ国町】

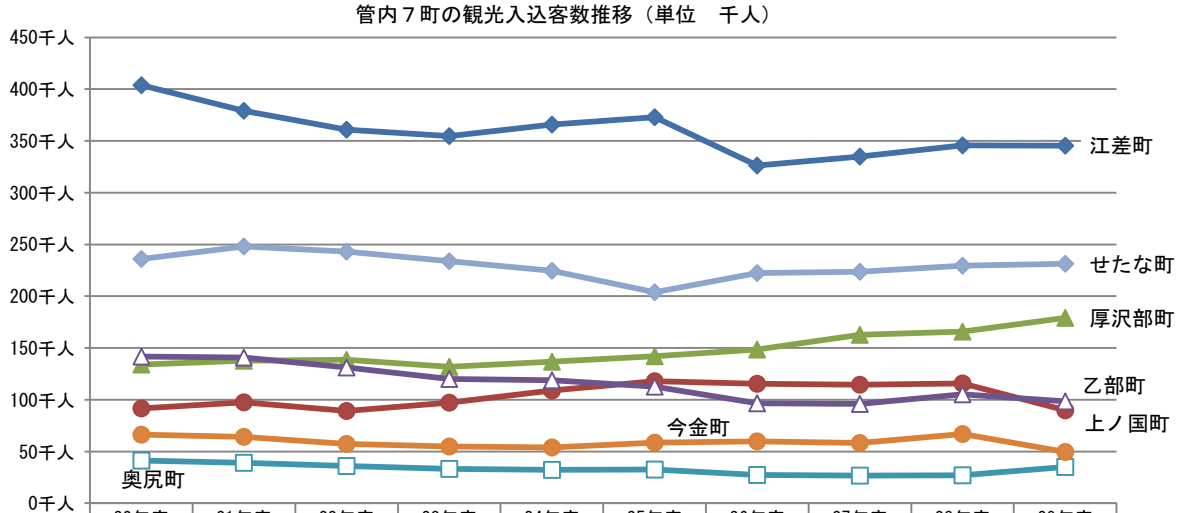
平成20年度には9万人の入込であったが、徐々に入込が増え、平成24年以後は10万人を超えた。新幹線開業後の平成28年度に11.6万人まで伸ばしたが、平成29年度には再び10万人を割り込んだ。道の駅改修、天候不順によるイベント動員減などが減少要因と考えられる。

【厚沢部町】

檜山管内で唯一、堅調に観光入込を増加させている。平成20年度の入込数は年間13万人台であったが、平成25年度には14万人を超え、平成29年度には約18万人にまで伸長した。

この間の入込増は主として「日帰り観光客」の増加に支えられており、「道の駅あっさぶ」の活性化（国交省：平成27年度重点「道の駅」に選定）など、日帰り客獲得の取組み効果も大きい。

管内７町の観光入込客数推移（単位　千人）



	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
江差町	403.7	379.0	360.9	354.7	365.7	372.8	326.4	334.8	345.8	345.4
上ノ国町	91.5	97.6	89.3	97.1	108.8	117.9	115.4	114.6	115.9	89.9
厚沢部町	134.0	137.8	138.6	131.7	136.9	141.9	148.6	162.6	165.8	179.1
乙部町	141.7	140.7	131.1	120.1	118.8	112.8	96.6	96.1	105.1	98.4
奥尻町	41.3	39.0	36.1	33.3	32.4	32.5	27.2	26.6	27.1	35.0
今金町	66.4	64.1	57.4	54.7	53.9	58.6	59.9	58.4	66.9	49.6
せたな町	236.1	248.1	243.0	233.8	224.4	203.7	222.3	223.5	229.4	231.3

【乙部町】

かつては厚沢部町を上回る入込数（平成20年度には14万人）を見せていたが、長期的な入込減の傾向が続いている。平成26年には10万人を割り込み、新幹線開業後の平成28年度に2年ぶりに10万人台を回復したものの、平成29年度には再び10万人を割り込んだ。

同町は元来、海浜公園の日帰り入込に依拠しており、天候に左右される傾向があるものの、日帰り客の長期減少傾向は、ほぼ一貫して続いていることに留意したい。

【奥尻町】

管内唯一の離島町であり、98％前後が宿泊客という特異な観光地で、同時に交通アクセスによって観光入込は左右される傾向がある。近年の動きでは、平成20年度には4万人の入込を見せていたが、その後、徐々に入込の減少が続き、平成26年には3万人を割り込んだ。新幹線開業年度の平成28年度にも3万人は回復しなかったが、フェリーの新造船就航（平成29年5月）や、スポーツイベントの定着など、着実な取組みが功を奏し、平成29年度には前年比30％増近くの3.5万人に回復させた。

【今金町】

管内北部に位置し、最も“北海道新幹線開業効果から遠い”地域と見られてきた。平成20年度には7万人弱の入込を見せていたが、他町と同様に入込の減少があった。しかし、小幅な減少で踏み留め、平成25年度以後は6万人弱を保ち、平成28年度には平成21年度以来となる年間7万人近くに回復させた。同町の入込は大型イベントやキャンプ場などの天候に左右される要因を抱えており、平成29年度は上半期は堅調に推移したものの、下半期はスキー場のリフト停止などの影響で入込が大きく減じられ、前年度を大きく下回る結果となった。

【せたな町】

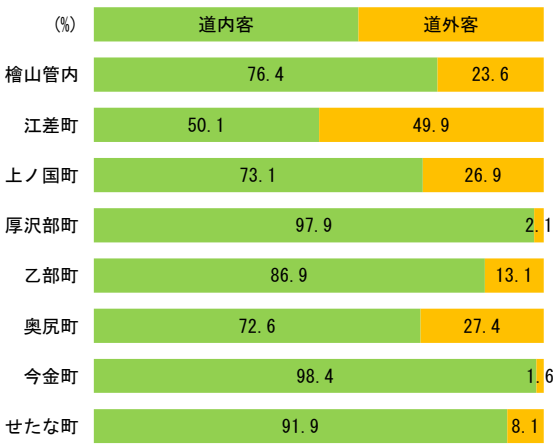
管内北部の中心で、管内観光入込数も江差町に次いでおり、その推移も比較的堅調である。平成20年度の入込数は約24万人であり、平成23年度までは24万人前後で推移した。しかし、その後は減少が目立ち始め、平成25年度には年間20万人台にまで減少した。しかし、平成26年度には22万人台を回復し、平成28～29年度には23万人前後で安定している。なお、同町も“三大まつり”や海水浴など天候に左右される傾向がある。

5　管内７町の道内外客構成

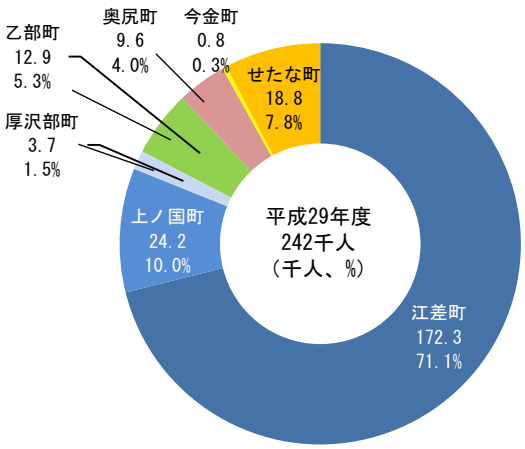
管内観光入込客数の8割近くは「道内客」で占められ、厚沢部町や今金町、せたな町などでは「道外客」の割合は1割に満たない。

「道外客」の割合が大きいのは江差町、奥尻町、上ノ国町で、特に江差町は管内を訪れる24万人の「道外客」のうち、7割を占める。

管内７町の観光入込客数に占める「道外客」の割合
（平成29年度　単位　％）



管内７町の「道外客数・管内に占める割合」
（平成29年度　単位　千人、％）

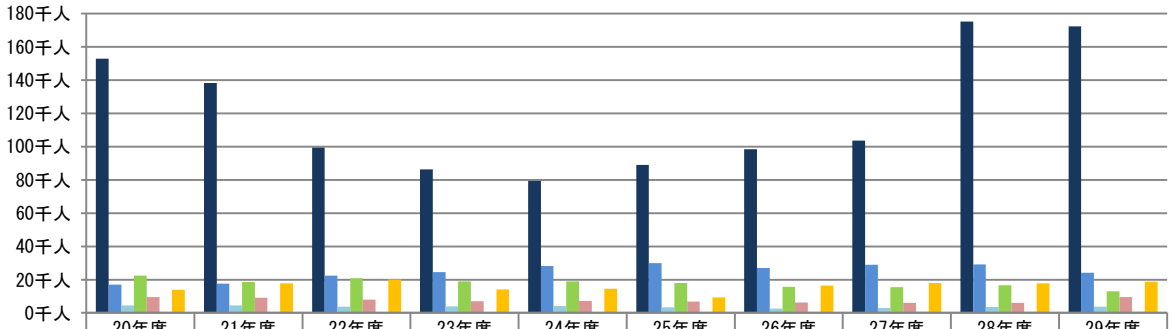


６　管内７町の道外客推移

管内観光入込客数の2割程度を占める「道外客」は、ほとんどが江差町への入込であるが、その江差町への入込数は年々減少していた。

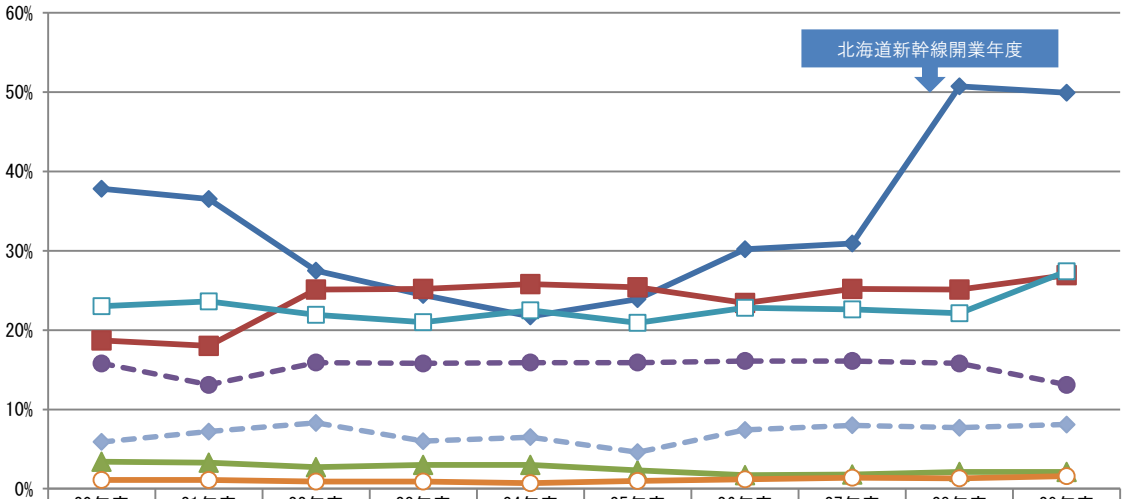
平成25年度から緩やかに回復し、北海道新幹線開業年度の平成28年度には急速に増大したが、翌年（平成29年度）にはその伸びが止まった。

管内７町の観光入込客数のうち「道外客」の推移（単位　千人）



	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
江差町	152.8	138.2	99.4	86.4	79.4	89.0	98.5	103.6	175.2	172.3
上ノ国町	17.1	17.6	22.4	24.5	28.1	30.0	27.0	28.9	29.1	24.2
厚沢部町	4.5	4.5	3.7	3.9	4.1	3.3	2.6	2.9	3.5	3.7
乙部町	22.4	18.5	20.9	19.0	18.9	17.9	15.6	15.5	16.6	12.9
奥尻町	9.5	9.2	7.9	7.0	7.3	6.8	6.2	6.0	6.0	9.6
今金町	0.7	0.7	0.5	0.5	0.4	0.6	0.7	0.8	0.9	0.8
せたな町	14.0	17.8	20.2	14.1	14.6	9.4	16.4	17.9	17.7	18.8

管内７町の観光入込客数に占める「道外客割合」の推移（単位　%）



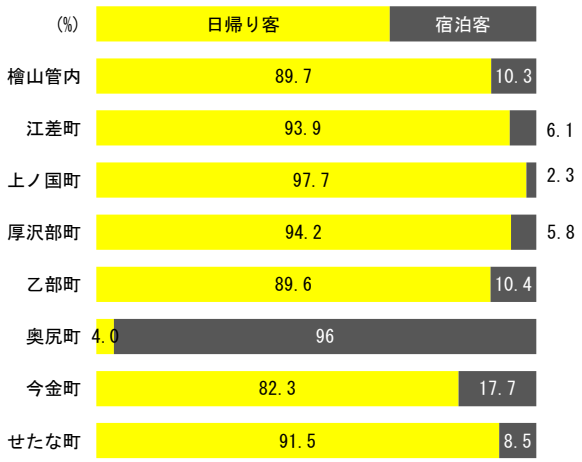
	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
江差町	37.8	36.5	27.5	24.4	21.7	23.9	30.2	30.9	50.7	49.9
上ノ国町	18.7	18.0	25.1	25.2	25.8	25.4	23.4	25.2	25.1	26.9
厚沢部町	3.4	3.3	2.7	3.0	3.0	2.3	1.7	1.8	2.1	2.1
乙部町	15.8	13.1	15.9	15.8	15.9	15.9	16.1	16.1	15.8	13.1
奥尻町	23.0	23.6	21.9	21.0	22.5	20.9	22.8	22.6	22.1	27.4
今金町	1.1	1.1	0.9	0.9	0.7	1.0	1.2	1.4	1.3	1.6
せたな町	5.9	7.2	8.3	6.0	6.5	4.6	7.4	8.0	7.7	8.1

7　管内７町の日帰り・宿泊客構成

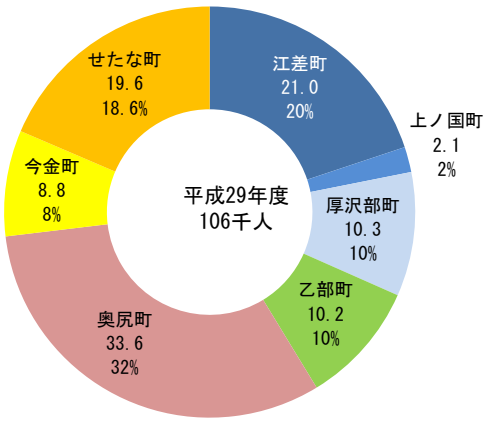
管内観光入込客数の9割近くは「日帰り客」で占められ、日帰り中心傾向は離島であることから「宿泊客」が90%以上の奥尻町を除き、全町で共通している。言わば、管内観光入込の最大の特徴が、この“宿泊比率の小ささ”にあり、日帰り又は通過型観光圏と言われる所以である。

宿泊客の割合の推移からは、せたな町の「滞在化」が弱まる一方で、今金町と乙部町での宿泊者割合が伸長（滞在化）が見られる。

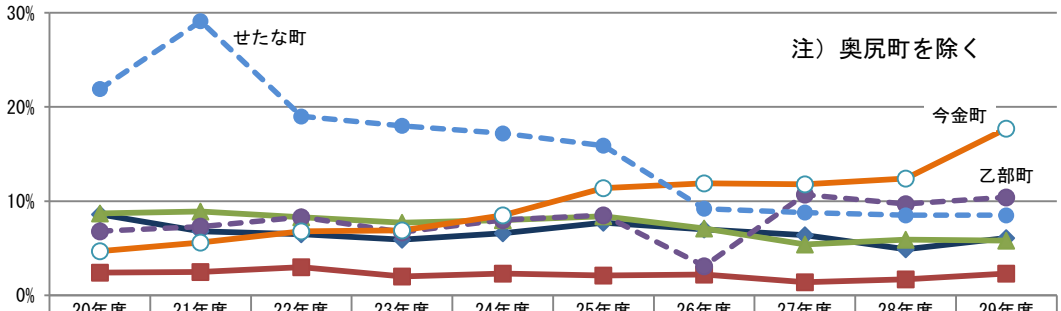
管内７町の観光入込客数に占める「日帰り・宿泊客」の割合（平成29年度　単位　%）



管内７町の「宿泊客数・管内に占める割合」（平成29年度　単位　千人、%）



管内７町の観光入込客数に占める「宿泊客比率」の推移（単位　%）



	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
江差町	8.6	6.8	6.5	5.9	6.6	7.7	7.0	6.4	4.9	6.1
上ノ国町	2.4	2.5	3.0	2.0	2.3	2.1	2.2	1.4	1.7	2.3
厚沢部町	8.7	8.9	8.3	7.7	8.0	8.4	7.1	5.4	5.9	5.8
乙部町	6.8	7.3	8.3	6.7	8.0	8.5	3.1	10.7	9.7	10.4
今金町	4.7	5.6	6.8	6.9	8.5	11.4	11.9	11.8	12.4	17.7
せたな町	21.9	29.1	19.0	18.0	17.2	15.9	9.2	8.8	8.5	8.5

管内７町の観光入込客数のうち「宿泊客・宿泊客比率」の推移（単位　千人）

		20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
宿泊客数（千人）	檜山管内	153.6	164.7	134.1	119.6	122.2	123.5	92.9	94.0	93.4	105.6
	江差町	34.7	25.9	23.5	21.1	24.3	28.8	22.7	21.3	17.1	21.0
	上ノ国町	2.2	2.4	2.7	1.9	2.5	2.5	2.5	1.6	2.0	2.1
	厚沢部町	11.7	12.2	11.5	10.1	11.0	11.9	10.6	8.7	9.7	10.3
	乙部町	9.6	10.3	10.9	8.1	9.5	9.6	3.0	10.3	10.2	10.2
	奥尻町	40.6	38.1	35.4	32.6	31.7	31.7	26.5	25.5	26.5	33.6
	今金町	3.1	3.6	3.9	3.8	4.6	6.7	7.1	6.9	8.3	8.8
	せたな町	51.7	72.2	46.2	42.0	38.6	32.3	20.5	19.7	19.6	19.6
観光入込客総数に占める宿泊客数の割合（%）	檜山管内	13.8	14.9	12.7	11.7	11.7	11.9	9.3	9.2	8.8	10.3
	江差町	8.6	6.8	6.5	5.9	6.6	7.7	7.0	6.4	4.9	6.1
	上ノ国町	2.4	2.5	3.0	2.0	2.3	2.1	2.2	1.4	1.7	2.3
	厚沢部町	8.7	8.9	8.3	7.7	8.0	8.4	7.1	5.4	5.9	5.8
	乙部町	6.8	7.3	8.3	6.7	8.0	8.5	3.1	10.7	9.7	10.4
	奥尻町	98.3	97.7	98.1	97.9	97.8	97.5	97.4	95.9	97.8	96.0
	今金町	4.7	5.6	6.8	6.9	8.5	11.4	11.9	11.8	12.4	17.7
	せたな町	21.9	29.1	19.0	18.0	17.2	15.9	9.2	8.8	8.5	8.5

８　外国人観光客の状況

北海道では外国人観光客の入込数（宿泊客数ベース）は、平成23年度の約57万人だったものが、25年度には100万人を突破、27年度には200万人を突破、29年度には300万人を目前（平成30年度の300万人突破は確実）とするなど、著しい急増を続けている。

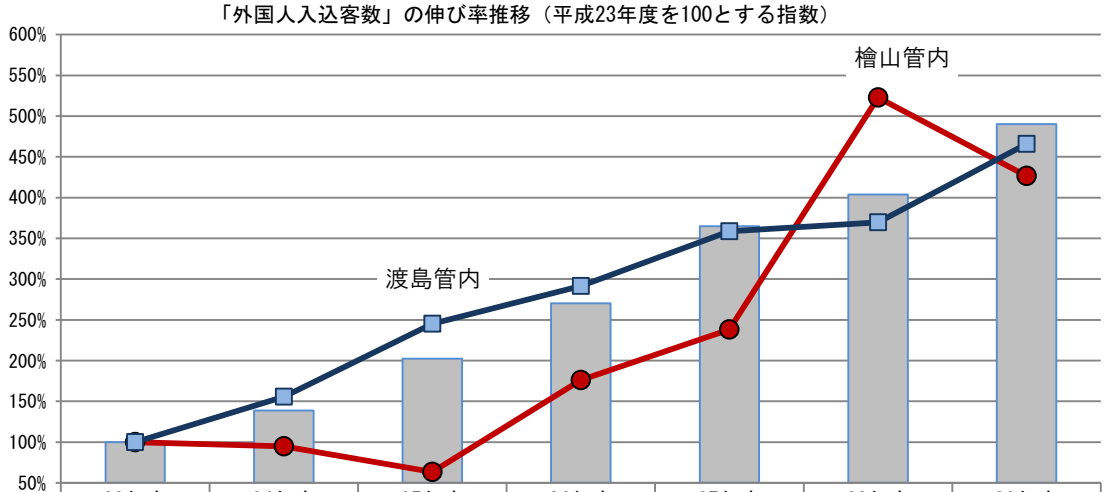
渡島管内でも平成29年度には約60万人に達しているが、檜山管内での外国人入込は鈍く、北海道新幹線開業後に増加はしたものの、その規模は1,000人にも達していない。（※平成30年度は振興局調べで宿泊客数が200人未満）

平成23年度を100とする伸び率（指数）では、基礎数が少ないものの外国人入込の伸びが認められるが、全道或いは渡島管内に比べ、その伸びは鈍い。

「外国人入込客数」の推移（単位　人）

（人）		23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
檜山管内	宿泊客数	79	75	50	139	188	413	337
	宿泊客延数	105	112	81	154	215	491	434
渡島管内	宿泊客数	126,566	196,874	310,445	369,044	453,685	468,063	589,519
	宿泊客延数	130,726	208,038	323,583	386,978	477,888	480,336	603,037
全　道	宿泊客数	569,700	790,400	1,153,100	1,541,300	2,080,000	2,301,200	2,792,100

「外国人入込客数」の伸び率推移（平成23年度を100とする指数）



	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
全道	100.0	138.7	202.4	270.5	365.1	403.9	490.1
檜山管内	100.0	94.9	63.3	175.9	238.0	522.8	426.6
渡島管内	100.0	155.6	245.3	291.6	358.5	369.8	465.8

管内７町の観光入込客数　総括表

千人、泊

	区　分	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
檜山管内	入込総数	1,114.7	1,106.3	1,056.4	1,025.4	1,040.9	1,040.2	996.4	1,016.6	1,056.0	1,028.7
	内道外客	221.0	206.5	175.0	155.4	152.8	157.0	167.0	175.6	249.0	242.3
	内道内客	893.7	899.8	881.4	870.0	888.1	883.2	829.4	841.0	807.0	786.4
	内日帰客	961.1	941.6	922.3	905.8	918.7	916.7	903.5	922.6	962.6	923.1
	内宿泊客	153.6	164.7	134.1	119.6	122.2	123.5	92.9	94.0	93.4	105.6
	宿泊客延数	185.6	194.2	160.0	141.8	156.0	143.4	115.5	106.2	111.5	123.3
江差町	入込総数	403.7	379.0	360.9	354.7	365.7	372.8	326.4	334.8	345.8	345.4
	内道外客	152.8	138.2	99.4	86.4	79.4	89.0	98.5	103.6	175.2	172.3
	内道内客	250.9	240.8	261.5	268.3	286.3	283.8	227.9	231.2	170.6	173.1
	内日帰客	369.0	353.1	337.4	333.6	341.4	344.0	303.7	313.5	328.7	324.4
	内宿泊客	34.7	25.9	23.5	21.1	24.3	28.8	22.7	21.3	17.1	21.0
	宿泊客延数	34.7	25.9	23.5	21.1	24.3	28.8	34.5	21.3	21.1	24.6
上ノ国町	入込総数	91.5	97.6	89.3	97.1	108.8	117.9	115.4	114.6	115.9	89.9
	内道外客	17.1	17.6	22.4	24.5	28.1	30.0	27.0	28.9	29.1	24.2
	内道内客	74.4	80.0	66.9	72.6	80.7	87.9	88.4	85.7	86.8	65.7
	内日帰客	89.3	95.2	86.6	95.2	106.3	115.4	112.9	113.0	113.9	87.8
	内宿泊客	2.2	2.4	2.7	1.9	2.5	2.5	2.5	1.6	2.0	2.1
	宿泊客延数	4.6	6.7	5.3	4.3	5.0	6.8	5.1	4.5	4.3	6.1
厚沢部町	入込総数	134.0	137.8	138.6	131.7	136.9	141.9	148.6	162.6	165.8	179.1
	内道外客	4.5	4.5	3.7	3.9	4.1	3.3	2.6	2.9	3.5	3.7
	内道内客	129.5	133.3	134.9	127.8	132.8	138.6	146.0	159.7	162.3	175.4
	内日帰客	122.3	125.6	127.1	121.6	125.9	130.0	138.0	153.9	156.1	168.8
	内宿泊客	11.7	12.2	11.5	10.1	11.0	11.9	10.6	8.7	9.7	10.3
	宿泊客延数	18.3	20.1	18.3	15.1	29.7	19.2	14.4	12.1	13.6	13.9
乙部町	入込総数	141.7	140.7	131.1	120.1	118.8	112.8	96.6	96.1	105.1	98.4
	内道外客	22.4	18.5	20.9	19.0	18.9	17.9	15.6	15.5	16.6	12.9
	内道内客	119.3	122.2	110.2	101.1	99.9	94.9	81.0	80.6	88.5	85.5
	内日帰客	132.1	130.4	120.2	112.0	109.3	103.2	93.6	85.8	94.9	88.2
	内宿泊客	9.6	10.3	10.9	8.1	9.5	9.6	3.0	10.3	10.2	10.2
	宿泊客延数	11.4	13.0	15.4	11.4	13.0	13.1	4.4	11.8	12.3	11.5
奥尻町	入込総数	41.3	39.0	36.1	33.3	32.4	32.5	27.2	26.6	27.1	35.0
	内道外客	9.5	9.2	7.9	7.0	7.3	6.8	6.2	6.0	6.0	9.6
	内道内客	31.8	29.8	28.2	26.3	25.1	25.7	21.0	20.6	21.1	25.4
	内日帰客	0.7	0.9	0.7	0.7	0.7	0.8	0.7	1.1	0.6	1.4
	内宿泊客	40.6	38.1	35.4	32.6	31.7	31.7	26.5	25.5	26.5	33.6
	宿泊客延数	43.6	40.8	37.9	35.4	34.1	34.6	28.6	27.6	28.5	35.7
今金町	入込総数	66.4	64.1	57.4	54.7	53.9	58.6	59.9	58.4	66.9	49.6
	内道外客	0.7	0.7	0.5	0.5	0.4	0.6	0.7	0.8	0.9	0.8
	内道内客	65.7	63.4	56.9	54.2	53.5	58.0	59.2	57.6	66.0	48.8
	内日帰客	63.3	60.5	53.5	50.9	49.3	51.9	52.8	51.5	58.6	40.8
	内宿泊客	3.1	3.6	3.9	3.8	4.6	6.7	7.1	6.9	8.3	8.8
	宿泊客延数	4.3	4.5	5.1	5.0	5.8	7.5	8.0	8.1	9.5	9.7
せたな町	入込総数	236.1	248.1	243.0	233.8	224.4	203.7	222.3	223.5	229.4	231.3
	内道外客	14.0	17.8	20.2	14.1	14.6	9.4	16.4	17.9	17.7	18.8
	内道内客	222.1	230.3	222.8	219.7	209.8	194.3	205.9	205.6	211.7	212.5
	内日帰客	184.4	175.9	196.8	191.8	185.8	171.4	201.8	203.8	209.8	211.7
	内宿泊客	51.7	72.2	46.2	42.0	38.6	32.3	20.5	19.7	19.6	19.6
	宿泊客延数	68.7	83.2	54.5	49.5	44.1	33.4	20.5	20.8	22.2	21.8

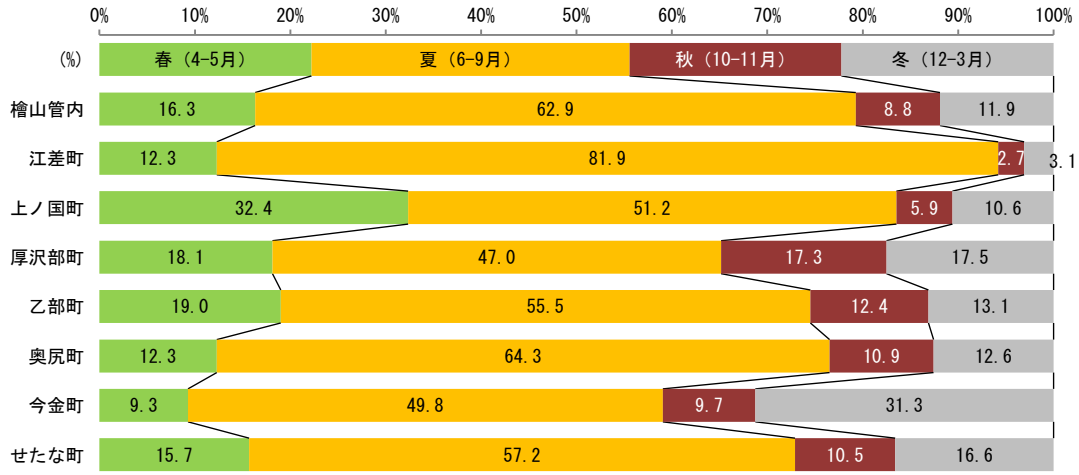
９　管内７町の季節別観光入込客構成

管内観光入込客数の6割は「夏（6～9月）」に集中している。

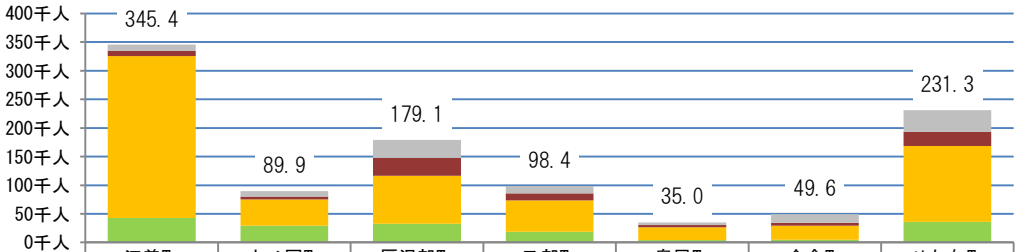
夏に集中する傾向は、江差町で顕著であり一年の入込客数の8割が夏の入込になっている。また、奥尻町も6割が夏である。

一方、スキー場を有する今金町では「冬（12～3月）が3割を超え、上ノ国町は秋から道の駅が閉鎖していた関係で「春（4～5月）」の入込が3割を超える。

管内７町観光入込客数の季節別構成比（平成29年度　単位　%）

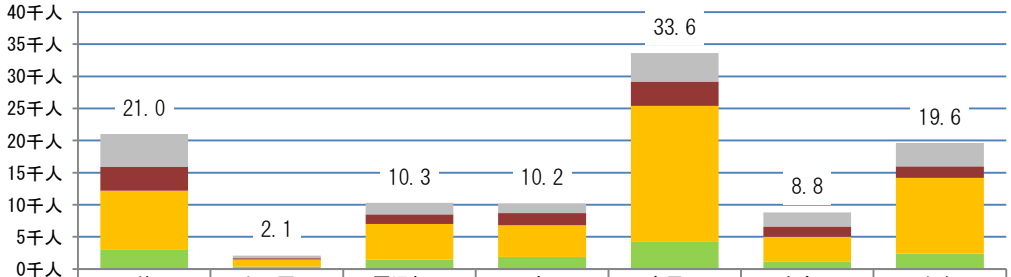


管内７町の観光入込客数に占める「宿泊客比率」の推移（平成29年度　単位　千人）



	江差町	上ノ国町	厚沢部町	乙部町	奥尻町	今金町	せたな町
合計	345.4	89.9	179.1	98.4	35.0	49.6	231.3
冬（12-3月）	10.8	9.5	31.4	12.9	4.4	15.5	38.4
秋（10-11月）	9.3	5.3	31.0	12.2	3.8	4.8	24.4
夏（6-9月）	282.8	46.0	84.2	54.6	22.5	24.7	132.3
春（4-5月）	42.5	29.1	32.5	18.7	4.3	4.6	36.2

管内７町「宿泊客」の季節別構成比（平成29年度　単位　千人）



	江差町	上ノ国町	厚沢部町	乙部町	奥尻町	今金町	せたな町
合計	21.0	2.1	10.3	10.2	33.6	8.8	19.6
冬（12-3月）	5.1	0.4	1.8	1.5	4.4	2.2	3.6
秋（10-11月）	3.7	0.2	1.5	1.9	3.8	1.6	1.8
夏（6-9月）	9.2	1.1	5.5	4.9	21.2	3.8	11.8
春（4-5月）	3.0	0.4	1.5	1.9	4.2	1.2	2.4

2　檜山管内観光入込概況からみる特徴と課題

ここまでの長期的な観光入込動向の把握から、下記に概況と課題（テーマ）を下記に整理した。なお、各課題（テーマ）に対する取組みについては別項で記述する。

檜山管内観光入込客数資料からみる課題抽出

	管内観光の概況		課題（テーマ）
1	観光客数の推移から	● 北海道新幹線開業は、道外客数を増加させたものの、観光客数全体としての増加はなく、その効果は限定的となっている。	**道内客の取り込み**
2	宿泊客数の推移から	● 北海道新幹線開業後の道外客増加に伴い、宿泊客が4年ぶりに10万人の大台を超え、宿泊者比率も10%台に乗せた。 ● しかし、依然として90%は日帰り客である傾向は変わらない。	**滞在型の促進**
3	７町の動きから	● 近年、堅調に入込数を増やしているのは厚沢部町のみ。 ● せたな町も平成25年まで続いた減少傾向から増加に転じている。 ● 江差町は北海道新幹線開業効果によって入込を回復したが、その効果持続性が問われている。 ● ７町の観光資源の多くはイベント、屋外レジャーなどに依拠する形であるが、いずれも天候などに左右される傾向が強い。	**天候に左右されにくい通年型観光振興**
4	７町の道外客入込動向から	● 管内に入込む道外客の７割は江差町が占めており、他町、特に中北部への入込数が極端に少ない。 ● 北海道新幹線開業後は、さらにこの偏重が強まった。	**道外客の江差町偏在化の解消（管内周遊促進）**
5	７町の宿泊客入込動向から	● ７町のうち、宿泊客割合が10%を超えるのは奥尻町、今金町、乙部町のみであるが、今金、乙部両町も8割以上は日帰り客。 ● （奥尻町を除き）全町で滞在性は弱い。	**全町での滞在化促進**
6	７町の季節別入込動向から	● 管内全体では6割が「夏（6～9月）」で占められ、特に秋（10～11月）、冬（12～3月）の入込が弱く、“半年観光地”の様相を呈している。 ● ７町のうち、最も入込数が大きい江差では、「夏」偏重の傾向も最も強い。 ● 唯一、スキー場を利した今金町が入込数の3割を冬場に集客していること、桜・ツツジを活かして年間入込の1/3を「春」に集客している上ノ国町、季節バランスの良い安定した分布になっている厚沢部町などの例に注目できる。	**全町での滞在化促進**
7	外国人観光客入込	● 全道的にインバウンド「300万人」時代から、2020年には「500万人」（目標）が言われる中、管内のインバウンド誘客は弱く、毎年数百人の入込みに留まる。	**インバウンド受入体制の拡充**